

平成 27 年 1 月 4 日

京口門だより No. 15

明けましておめでとうございます。どうぞ本年もよろしくお願いたします。私事ながら私の正月は、孫から始まったかぜが家族に次々とうつり、大騒動でした。幸いみな漢方薬で正月三が日のうちに回復いたしました。私も風邪で熱など出たことはあまりないのですが、37.5℃の発熱をきたし、風邪2号2服飲み、風邪5号を2日のんで治すことができました。風邪のような感染症でも漢方薬は迅速に効くことを改めて思い直しました。

ところで、今月の6日は小寒、20日は大寒で、一年で最も寒い季節です。今年は今末から寒いのに、寒中となるとどうなるのやら思いやられます。寒冷と暑熱とは反対の現象です。漢方では寒と熱は重要な二大要素で、寒はまた陰とされ、熱はまた陽とされます。陰陽は漢方のみならず、古代中国の思想の二大要素です。陰はyinと口を閉じるように発音し、陽はyangと口を開くように発音します。陰という字は丘の日蔭のことをいい、陽は丘の日の当たるところをさしています。したがって陰は温度の低いところ、暗いところ、静かなうごき、内面をさします。一方、陽は温度の高いところ、明るいところ、活発なうごき、外面のことをさします。ですから、漢方で陽病といえ、熱があつて、症状が激しくなりますが、陰病ではたとえ熱があつても寒がり、症状はあまり激しく現れられません。陽病は熱が原因ですから、熱を除く働きのある薬を用います、陰病は寒が原因ですから、寒を温める薬を用います。たとえば同じ下痢でも陽病の下痢は、熱のせいで吐いたり下したり、腹がごろごろと鳴って、腹痛をきたしたりします。しかし陰病の下痢は、寒によるものですから、早朝に急に下痢したり、不消化な便を下したり、下痢して憔悴してしまうといったことが見られます。陽病の下痢には黄芩湯や半夏瀉心湯など、熱を冷ます黄芩や黄連の入った薬を使います。陰病の下痢には温める働きのある、附子や乾姜を用いた薬を使います。このように、一つの症状や病気にたいして、陰陽と分けるように、細かく分けて診断し治療をします。それが漢方治療の特徴です。個別的な治療を行なう点が、現代の医療とは違っている点です。

